

令和6年度 学生FD CHAmmiT 学部提案書に基づく学生への回答書

1 学生との協議の場について

実施日	実施内容
令和7年1月23日	FD CHAmmiT参加者（スタッフ・教職員含む）、FD委員長、FD副委員長、教務課員の計13名が学部提案書について約80分に渡り回答内容を共有し意見交換を行い、工学部FD委員会で協議した。

2 工学部から学生へのメッセージ

コロナ禍を経てアフターコロナとなり、間もなく2年が経とうとしております。現在、工学部の授業はこれまでと同じ対面授業を主として展開しておりますが、コロナ禍のオンラインとアフターコロナの対面授業の両方を経験された学生さんもおられるかと思います。その中で日本大学学生FD CHAmmiTに参加いただき作成された学部提案書について、幅広い提案をいただきありがとうございました。その提案について、参加学生教職員と情報共有の場を設け回答内容を情報共有しFD委員会において報告いたしました。「学生が望む授業」に関して率直な意見を真摯に受け止め、予測不可能な時代に工学部で学んだ貴重な経験を生かせるよう、本学の教育理念である「自主創造」を実践し社会で活躍できるエンジニアを輩出できるよう、教育の改善に努めて参ります。

3 学部提案書の対応について

「学部が望む授業」の提案について

項目	対応済	対応中	検討中	対応内容
1 ロハス工学と電気電子の分野を関連付けて欲しい	○			令和4年度からの入学用カリキュラムから、1年次後学期に必修科目の「ロハス工学入門」を設置し、初年次教育としてロハス工学と所属学科との関係を意識し学科の専門性や特徴を理解できるように授業展開しております。しかしながら、電気電子工学は、現代生活に欠かせない電気エネルギーや電子情報通信など幅広く網羅する専門分野ですので、全てが「ロハス工学」につながると言っても過言ではないかもしれません。
2 成績評価基準を一致させて欲しい（課題や小テストの実施方法や条件）		○		今回お聞きした内容の該当科目について、教員側の状況等も調査・確認し、改めるべき点については今後改善いたします。
3 評価した課題及びテスト内容の返却と解説をして欲しい		○		基本的にはシラバスにおいて、小テストや中間試験等については理解度の確認のため多くの科目で返却するとしており、また科目によっては最終試験も返却している事例もあります。しかし過去の試験問題として以後の不正行為につながる恐れがあり、返却できない科目の事情もあると思われます。しかしながら、試験とその後の解説は必ずセットで実施するようにシラバス作成要領で定めておりますのでこの点は徹底するようにいたします。なお、どうしても自身の結果が気になる場合は、科目担当者に直接お問合せください。
4 ノートの取り方を1年次に教えて欲しい	○			1年次前期に開講している「自主創造の基礎」で教科書として使用する「ミライヲツクル-Leaning Guide-」のp.22-23に「ノートのつくり方」について記載がありますので、参考にしてみてください。 なお、論文やレポートの作成についても当該ページ以降に記載されておりますので参考にしてください。
5 海外と国内の現状と課題を理解し、改善手立てを考える	○			工学部ですので、国際関係等を専門的に学ぶ科目を設置するのは難しいと考えますが、全学共通教育科目として工学部では令和5年度から開講している「日本を考える」では、世界情勢から見た日本が直面する社会問題等について分析や解決方法を学修する内容が含まれております。 また、各学科において海外の技術に関することを学修する科目が数多くありますので、シラバスで検索し参考にしてみてください。
6 土木の歴史について学びたい 人工知能など最先端の授業について学びたい 航空宇宙実験を学びたい	○			土木史や人工知能については、それぞれに対応した学科に科目が設置されており、また、大学院にも応用科目を設置しておりますので学修できるかと考えます。しかしながら航空宇宙実験については、本学部には航空宇宙工学を専門とする学科がないため、現状では実験設備を設置するのは難しいと考えております。

	項目	対応済	対応中	検討中	対応内容
7	ちゃんとマイクを持って欲しい	○			科目担当教員の一時的なものか癖なのか分かりかねますが、講義内容が聞き取りづらい場合、なるべく早く当該教員にその旨申し出る方が良いかと思います。もし言いづらい場合は、授業後にも教務課になるべく早くお申し出ください。当該教員に伝えます。
8	海外で使える英語の授業を実施して欲しい (技術英語と日常会話では異なるため)	○			技術英語については科目の特性上、各専門分野に関する英語の用語や論文を読み解くための学修であるため、日常英会話の学修とは異なると考えます。なお、現在のカリキュラムでは技術英語以外の英語科目は原則、英語で授業を行っており、4技能を用いCEFRの各レベルに準拠した内容で展開しております。
9	グループワークやディスカッションを取り入れて欲しい	○			各科目には学修内容上の特性があり、工学部ではそれらを適切なバランスで配置しております。全学共通教育科目、外国語科目、演習・実験・実習科目、ゼミナールや卒業研究などはまさにグループワークやディスカッションを伴う科目ですので積極的に参加してください。
10	分からないことをTAや教員に聞けるようにして欲しい。先生方が別室に行ってしまう。		○		基本的には、授業で分からない部分を先生に聞きたい場合は、授業前後に直接聞いたり、またはオフィスアワーや学修支援専門員制度を利用してください。他にも、大学院生によるチューター制度等があるなど、学修指導が受けられる制度が複数ありますので気軽に利用していただきたいですが、先生が別室に行ってしまうとのことですので、問合せの受付時間を確保するよう改善いたします。
11	ポータルサイトやGoogleClassroomで、点数公開を義務化して欲しい	○			本学学則により、学業成績の判定については点数に応じたS,A,B,C及びD,Eによって表し、合格した科目について単位を与えると定めており、また、GPAにつきましても上記評価に応じた係数から算出しているなど、点数そのものによる評価ではないことから、公開については考えていないことを理解いただきたくお願いいたします。
12	学生自身が興味のある分野を他の学生や先生方にプレゼンする授業があるといい	○			1年次から主に実験・実習科目等で、プレゼンを行う機会は各学科にあると思います。なお、興味のある分野でのプレゼンであれば、3年次のゼミナールや、4年間の集大成として自身が取組む卒業研究の発表会で行うことができますし、更に高度な内容で取組みたい場合は、大学院への進学により修士（博士）論文発表会があります。
13	学生が行いたいことに対する話し合いや、企画書・計画書の書き方を学ぶ科目が欲しい 家を建てる授業（住宅設計）、創造しながら自分だけの家を考える科目が欲しい			○	ご提案ありがとうございます。次回のカリキュラム改定の際に参考にさせていただきます。 また、今回は住宅設計について提案いただきましたが、最近は変化に柔軟に対応できるよう多岐に渡る知識やスキルが求められていることから、他学科履修の在り方等についても併せてカリキュラム改定の参考にさせていただきます。
14	映画を見て流行や社会、先端技術、歴史を学べる授業、世界のジェンダーについて建築に生かせる授業、学科横断的な授業を行って欲しい			○	ご提案ありがとうございます。次回のカリキュラム改定の際に参考にさせていただきます。
15	グループワークや学生への問いかけ、学生に考えさせる時間、シミュレーションを行う授業、興味がある内容を探求できる授業を行って欲しい	○			1年次には自主創造の基礎（ワールド・カフェ）、2・3年次には実験実習、演習科目やゼミナールで、4年次には卒業研究があり、更なる探求を希望すれば大学院での研究など、テーマ等に応じ各学科・学年において、これらについて学ぶ授業を設置していると考えます。 なお、提案いただいた授業内容については、次回のカリキュラム改定の際に参考にさせていただきます。
16	学生と教員間で連絡方法が数多くありすぎて連絡ができないことがあるので改善して欲しい	○			連絡方法について、授業においてはポータルサイトやgoogleclassroom、他メール等を使用しているかと思います。メリットがそれぞれにあり統一できずご不便をおかけいたしますが、学生の学修効果を考えそれぞれのメリットを活用しながら授業展開しておりますので、ご理解くださいますようお願いいたします。 なお、メールでの連絡の場合、大学から付与されているアドレスを使用してください。

※令和7年4月1日現在の対応内容となっており、今後の状況によって変更する可能性があります。